

世界の今と
自分にできることを考える

2023年
春

特別セミナー

～世界の人道危機を乗り越えるために～

主催：国連UNHCR協会 協力：UNHCR駐日事務所 Youth UNHCR EmPATHy 後援：JICA地球ひろば

日程

3/25(土) 15:00～17:30 対象：ユース・一般

(特別セッション13:00～14:30 対象：教員・教育関係者)

難民問題とUNHCRの基礎知識／Youth UNHCRとEmPATHy(ユースの活動)／
今、一人ひとりができること

※特別セッションは、3種のワークショップの解説+質疑応答

※特別セッションのみの参加も可能

※Web会議サービス「Zoom」を使用します。

目的

ウクライナ危機の始まりから1年経つ今も、人道危機が世界中で拡大し、気候変動や災害によって人々の命が脅かされるなかで、困難に立ち向かう難民・国内避難民の人々、日本における若い世代の難民支援活動や当協会の様々な取り組みにふれていただくことで、今、自分たちにできることを考え、実現するためのきっかけをつくるオンラインセミナーです。

※また、本編開始前には、教育現場で教材として活用したいと考えられている教職員推奨の特別セッションを実施し、すぐに教育現場で実践いただける3つのワークショップや、授業で活用いただける最新情報をまとめて紹介いたします。

これらは教育現場において、総合的な学習及び探究の時間や社会科をはじめとした各教科の教科指導、人権教育、キャリア教育における活用、グローバル人材の育成やアクティブラーニングへの応用が可能です。



お申し込み方法

参加費無料 / 先着順の事前申込制(定員：200名)

国連UNHCR協会ウェブサイトにて設ける特設ページ

<https://www.japanforunhcr.org/news/2023/23325>

で詳細をご確認のうえ、お申し込みください。

3月24日(金) 正午締切(事前に資料を送付致します)。



お問い合わせ先

国連UNHCR協会 広報啓発事業担当 school@japanforunhcr.org (天沼)

〒107-0062 東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター3階

TEL: 070-3869-1763 FAX: 03-3499-2273 www.japanforunhcr.org



難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

■特定非営利活動法人国連UNHCR協会とは

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。スイス・ジュネーブに本部を置き、約135カ国で援助活動を行っています。この国連の難民援助活動を支えるため、広報・募金活動を行う日本国内における公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。

■学生団体SOAR (Students' Organization Assembled for Refugees)とは

国連UNHCR協会のインターンシップを経験した学生を中心に設立された学生団体です。教育機関や団体に対し、難民問題に関する出張授業を実施しています。

■Youth×UNHCR for Refugeesとは

日本の若者の力で難民支援の輪をさらに広げるために、学生団体やユースが連帯して形成されたプラットフォームです。

■EmPATHyとは

Empathetic Multicultural PATHway with Youthの略で、日本に住む難民の背景を持ったユースと難民問題に関心がある日本の学生によるネットワークです

当協会開発のワークショップ (特別セッションで紹介)

『いのちの持ち物けんさ』

【喪失の疑似体験】を通じて生まれる
【自分への気づき】を元にして、難民の
人たちの心の痛みに寄り添うために
「自分にできることは何か」を考える
きっかけをつくること、難民について
知ってもらうことを目的としたワーク
ショップ。付箋とワークシートを使用し
たグループワークで、小学校高学年・
中高生以上推奨。

『あるものないもの ワークショップ』

難民の人々の現状に関する写真から
【難民にないもの】
【難民にはあって私たちにないもの】
【難民にも私たちにもあるもの】
について考え、自分たちや日本の社会
が、現在そして未来においてできること
を導き出していくワークショップ。
小学校高学年から中学生推奨。

『サトちゃんの大切なもの』

アニメ「難民「サト」のものがたり」の
登場人物の動きや表情から、当たり前
のように感じている日常が戦争によっ
て奪われていることを知り、自分たちに
できることを塗り絵などのツールをと
おして考えていくワークショップ。
幼稚園年長から小学校中学年推奨。